



〔2017年10月19日発行 会報第902号〕

今週のプログラム

(2017年10月19日 第902回例会)

「ガバナー公式訪問」

RI第2660地区  
片山 勉ガバナー

次週のプログラム

(2017年10月26日 第903回例会)

卓話「人の縁(えにし)」

担当：黒川 彰夫会員

〔第901回例会 (2017年10月12日) の記録〕

「会長の時間」

水本 徹会長

皆様は「冷暖自知」をご存知ですか？

文字や言語は大変便利ですが、案外不完全で不便な一面もあります。

例えば右はどちらか、左はどちらか、これは文字や言語で教えられたものではなく、体で覚えている事なのです。因みに辞書で調べてみると「相対的な位置のひとつ。東を向いた南の方。この辞書を開いて偶数ページのある側を言う…」とありますが、私たちはこんなややこしい説明で覚えていないはずですが、右・左などはまだ眼の助けもあり分かり易いですが、熱い・冷たいという感じは、どう説明されているのでしょうか？「冷たい」を調べると「つめたし」とあり、「つめたし」を調べると「冷ややか」とあり、「冷ややか」を調べると「冷えているさま・冷たいさま」とあって、結局堂々めぐりになっています。

このように文字や言語ではわかりにくく説明のつかないような事でも、一度体験すればすぐ理解納得出来ます。ストーブに手を触れ、熱い思いをした子供は二度とストーブに触れることはない。『論語』でも「学びて而して時に之を習う。喜ばしからずや」とあり、学んだことを自主的に自発的に反復して自分のものとし、それを生かすことによって人間は成長することができるのであって、そこが人間の喜びだというのですが、今日では勞せずして教えられ、手軽に与えられる。これでは真の創造はあり得ないし、創造の喜びも味わえない。

人間には頭というフィルターを通して分別し行動し、それ以前の大事な人間の生き方を忘れていく場合が多い。それではならぬと教えるのが「冷暖自知」です。

＜委員会報告＞ 親睦委員会・職業奉仕委員会より 来年3月開催予定の出雲大社の出席についてアンケートを配る予定です。

＜出席報告＞ 岸上和典 出席担当

会員数（内出席免除会員2名） 21名  
本日の出席者数（内免除会員0名） 17名  
本日の出席率 89.47%  
前々回（9月28日）の修正出席率 94.70%  
9月のホームクラブ出席率 90.79%  
9月の平均出席率 94.74%

＜ロータリーソング＞ 全会員

♪日も風も星も♪

＜ピアノ演奏＞ 近藤美里さん

1. 星に願いを
2. シャレード
3. ゴッドファーザー, 愛のテーマ

＜幹事報告＞ 山本友亮 幹事

- 1 地区大会用名札が届きましたので全会員のメールボックスに配布しました。  
大会に出席される方は当日必ず持参してください。
- 2 秋のRYLAセミナーへの参加協力のお礼状が片山ガバナー及び豊中RCから届きました。
3. 本日例会終了後、おしどりの間にて理事会・20周年委員会を開催致します。

＜SAA報告＞ 松田親男 SAA補助

＊スマイルボックス

水本会員 いよいよ秋です。今年はスポーツでしょうか、それとも食欲、読書は老眼で辛くなりました。

藤田会員 西本会員、卓話楽しみです。

西本(明)会員 卓話の準備大変でした。

黒川・山本(友)会員 コメント無し

＊ロータリー財団

柳原会員 税務調査です。忙しいです。

黒川会員 朝夕めっきり冷えますね。

高尾・山下会員 コメント無し

＊米山記念奨学会

黒川会員 長編の論文を脱稿しました。脱肛ではありません。

松田会員 ラオスに誰か行って。

西本(詩)会員 木曜日は車窓から季節の移ろいを楽しむ日です。

柳原会員 もう今年も2ヶ月あまりです。

山下・高尾・西本(明)会員 コメント無し

＊ラオス基金

黒川会員 ラオスに行くぞ

西本(詩)会員 庭のヤマモモが赤く実っています。

山下・高尾会員 コメント無し

＊メイプル基金

水島・山田・黒川・高尾会員 西本先生、卓話よろしくお願ひします。楽しみにしています。

柳原会員 巨大タチウオ釣れました。嬉しいです。

松田会員 20周年まとめつつありますね！

西本(詩)会員 今日の卓話が首尾よく行きます様に。

西本(明)会員 本日の卓話よろしく。

山下会員 コメント無し

2017年7月16日、日帰りで広島県呉市の江田島に行きました。以前から楽しみにしていた家族旅行です。早朝7時半新大阪から新幹線で広島駅に、さらに在来線で9:40 呉着。

呉市の駅前に「大和ミュージアム」があり、巨大戦艦「大和」の1/10大の模型が展示されている。太平洋戦争時世界一の戦艦として竣工され、昭和20年4月沖繩戦の援護の為、呉軍港を出港し九州の沖で米軍の攻撃に会い沈没した。

呉は東洋一の軍港であり、日本一の海軍工廠の町として栄えた。戦後は戦前から培われた技術と新しい技術とが結び付き、世界最大のタンカーを数多く建造するなど、戦後約10年位で世界一の造船国へと発展する一翼を担いました。

「大和ミュージアム」を出ると外は呉の元軍港と思われる港に巨大タンカーが数隻停泊しておりすぐ近くには大小様々な島が点在する、瀬戸内海の変化に富んだ自然豊かな良港でした。呉の「大和ミュージアム」を後にフェリーに乗船、江田島へと向かった。江田島へは1:15到着。

江田島海軍兵学校は現在、海上自衛隊幹部候補生学校、第一術科学校、江田島警務分遣隊と云う名称になっていた。校内は広い敷地に各種の建物があるが、海上自衛隊呉地方総監部、第一庁舎（旧呉鎮守府庁舎）等、赤レンガ造りの立派な建物で、かつて海軍士官学校生が寄宿、訓練していた。この建物は日本遺産にも指定され、「坂の上の雲」のテレビ番組でも放映されました。その資料館には、明治以来の日本の海軍の歴史とその資料が陳列され、時間の経つのを忘れる程でした。

当日は7月16日のカンカン照りの真夏日で、建物の外の見学は倒れそうになる程暑く、途中休憩所のある建物に引き上げました。そこには「レストラン江田島」があり、名物の「海軍グルメ」である「海軍カレー」「海軍コーヒー」「ラムネ」をいただきました。質素な食事でしたが、そこでの日常が偲ばれました。また、この「海軍カレー」は日露戦争時に頻発した脚気を防ぐ為に、長期の航海に耐えられる健康食の探求、研究が重ねられ取り入れられた歴史的なメニューです。

当日、兵学校の見学者は日曜日でもあり、比較的多く、数組に分かれて案内されていました。本来、不便な小島ですので、帰りは待っていたタクシーで、行きの上陸時とは異なる小さな港のフェリーで直接広島市へと向かい、新幹線で大阪へ。これからの時代を生きる子や孫の世界が平和でありますよう、心から祈りつつ帰路に着きました。|

<編集後記・追加情報・チョット一言・ライブラリー・etc>

ビクター 無し

(文責 西本 明文)